

国連アジア極東犯罪防止研修所 令和元年度第 1 回保護司国際研修に参加して  
北海道函館地区保護司会 保護司 勝又 真澄

6月初め、函館保護観察所の統括観察官より標記研修に参加するよう依頼を受けました。国連アジア極東犯罪防止研修所（アジ研）については、一昨年、東京で開催された世界保護観察会議に参加した折りに聞き覚えがありましたので、著名な先生方のご講演を拝聴できる機会と思い、快諾しました。ところが、後日詳細を伺うと、「女性・子どもに対する暴力事犯者の再犯防止に向けた処遇」を主要課題とする約 5 週間に及ぶ第 173 回国際研修の海外参加者に対し、日本の保護司制度及び保護司の活動を事例発表にて紹介し意見交換するというものでした。発表があるとは・・・私に務まるだろうか？と、急に不安になり即答したことを後悔しましたが、アジ研の教官からメールで丁寧なアドバイスをいただき、自己紹介のためのプロフィールや現在担当している性犯罪事例の発表原稿を作成し、楽しみに当日を迎えることができました。

平成 29 年 10 月に移転したアジ研の施設は新しくとても立派で、ロビーにはアジ研の沿革や、これまでの国際研修参加者記念写真やサインパネルなどが掲示されていて、アジ研の歴史と役割の重みを感じました。

オリエンテーション後、広々とした国際会議場に足を踏み入れた時には、雰囲気圧倒され緊張で足が震えてしまいましたが、メインテーブルに着席するやいなやスリランカやマレーシアの研修員の方が気さくに話しかけて下さり（インターンで来ていた日本人学生の方に通訳していただきました。）、リラックスすることができました。

今回の国際研修参加者は、アジア、アフリカ、オセアニア、南米地域 16 か国から 17 名、日本国内から 5 名の計 22 名で、いずれも自国の第一線で活躍している刑事司法・犯罪者処遇の実務家です。日本（東京、名古屋、大津、神戸、鳥取、宮崎及び函館）から参加した保護司 8 名は、自己紹介の後、性犯罪の事例発表（強制わいせつ、高齢者・精神障害者・若年者による性犯罪等）と、社会を明るくする運動やサポートセンター設置に関する保護司会の活動を紹介しました。いずれの発表も大変興味深く、今後の処遇や犯罪予防活動においてとても参考になる内容でした。私は、最後の発表者ということもあり、お国自慢とブレイクタイムを兼ねて函館の夜景や春の五稜郭公園、函館名物活イカを写真と片言の英語で紹介した後、現在担当している性犯罪事例について発表いたしました。多くの国では、日本のような保護司制度が導入されておらず、研修員からは「対象者を処遇していて、暴力の被害に遭ったことはないか？」「ギャングを担当したことがあるか？」「なぜ保護司をやっているのか？」など様々な質問が出ました。研修参加者同士の SNS でも、高齢になってボランティアに参加する日本人の心

情や無給で保護司をする理由について関心が高く、保護司活動への賞讃の声が上がっていたそうです。

研修終了後の食事会や懇親会では、アジ研スタッフの方々にサポートしていただきながら、海外の研修員と楽しく交流し懇親を深め、各地の保護司さんとも情報交換することができました。

二日目の海外客員専門家講義では、カナダのモントリオール大学教授で犯罪心理学者のフランカ・コルトニ氏の講義を拝聴し、性犯罪者にも色々なタイプがあり、再犯率の高い人は自分の行為に責任を感じていないこと、サポートする人（特に家族）の理解が無いと再犯率が上がることなど、多くのことを学びました。

アジ研が、1961年（偶然にも私が生まれた年です）に締結された、犯罪防止及び犯罪者の処遇に関して国際連合と日本政府の間で協定に基づき、翌年設置されて以来、永きに渡りアジアをはじめ様々な地域で重要な役割を果たしてきたことに敬意を表します。そして、それを支えているのがスタッフの皆様の温かい思いやりとおもてなしの心であると感じました。今回、絆で結ばれた研修参加者の皆様が、今後、自国や世界で御活躍されることを心から願っております。この度、国際研修という大変有意義で貴重な経験をさせていただきましたので、地元保護司会で紹介し情報共有して参りたいと存じます。

お世話になったアジ研の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。